

学生受講結果アンケートまとめ

2019 年度

名古屋学芸大学 F D 推進委員会

## はじめに

名古屋学芸大学では2007年度より教育の質を向上させることを目的として学生による「授業評価アンケート」を実施しています。これはFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環であり、教員はこのアンケートを通じて学生の授業の受け止め方（意識）を把握し、授業改善に役立てています。

2014年度からは「学生受講結果アンケート」へ様式を変更、また2018年度からは従来のマークシート用紙利用からWEB利用へ回答方式を変更し、次の実施要項のとおり実施しています。集計結果は各授業担当者に返却し、それぞれが授業改善に役立てるとともに、大学全体の集計結果をこの大学ウェブサイトに公表させていただきます。

## 実施要項

2019年6月27日

名古屋学芸大学授業担当者 各位

名古屋学芸大学FD推進委員会  
委員長 堀尾 正典

### 「学生受講結果アンケート」のWebによる実施について（2019年度 前期）

平素より本学の教育活動にご協力賜りお礼申し上げます。

さて今年度の「学生受講結果アンケート」の実施についてご案内いたします。

2019年度も昨年度同様、Webを用いて全科目でアンケート実施いたします。Web化は、低コストで実施できるメリットがある反面、回答率（回収率）の低下が問題になると言われています。そこで、この対策として本学では、授業内で学生が入力する時間を設けてその場で回答をさせることにしています。

しかし、単なる授業評価作業では本来の授業内容を削ってしまうことになるため、授業全体の振り返りを実施し、達成状況への自己分析、今後の学びについての意欲を促すような、学びの場として実施することとしました。

なお、このアンケートは学生への授業・教育改善を目的とし、大学が義務づけられているFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として、また第三者評価の根拠資料として重要な意味を持ちます。こうした事情をご理解・ご協力をお願いいたします。具体的な実施方法等は下記の通りです。

記

#### 1. 実施日程

**2019年7月9日(火)～2019年8月7日(水)**（授業第13週～成績提出締切日）

上記期間内の授業で、学生に各自ポータルサイトから回答入力させてください。

## 2. アンケート対象とする授業

1 教員 1 授業ではなく、原則として、全ての専任教員及び非常勤講師の担当する、全授業をアンケート対象とします。

但し、以下の授業は対象から除きます。

- ① 一部の集中講義等、上記期間に開講しない授業
- ② 今学期に成績評価しない（次学期以降に開講期をまたぐ）授業

なお、1 授業番号につき、1 アンケート（1 結果）となります。そのため、同一授業番号の授業を複数教員で担当する場合（オムニバス形式、二人以上の教員が同時に授業に入り複数で担当、クラスやグループ分けして各教員が個別で担当する授業）については、お手数ですが、代表教員（採点担当者）にて、アンケートを実施する担当者・授業回を調整いただき、ご指示ください。（システムの都合上、全担当教員のアンケートの受付、集計は出来かねますのでご了承ください。）

## 3. 効果的な振り返りと実施方法

従来のように、マークシート用紙の配付、回収は行いません。授業内で時間を設け、学生が各自の学修の振り返りを行い、その場でポータルサイト（Web）を利用し回答を入力するようご指示ください。なお、ここで言う振り返りとは、授業の単なるまとめだけではなく、

- ・知識や考え方など、その授業内での学修ポイントを振り返りさせて、思い出しから定着を図る。

- ・自分自身の学修で、何がだめでどこが良かったかなどを具体的に整理させる。
  - ・それらから、さらに学びを深めるために自分は何ができるのか、すべきかを考えさせる。
- など、次の学びに通ずるような自己改善に繋がるものを想定しています。

次頁に学生へ説明する具体的な手順と説明の例を示します。 おおよそ次頁のような手順で、学生に説明してください。

説明及び回答（入力）時間は全部で 20～30 分程度を想定しています。

なお、学生へは事前に、回答方法等を記載した案内「学生受講結果アンケート提出について」（添付資料 No.2（学生への案内）参照）をポータルサイトへ掲示し周知しています。参考に添付しますので、必要に応じ OHC で映す等ご案内ください。

## 4. 実施にあたっての留意点

(1) アンケート様式は、授業方法（講義、演習、実験・実習）にかかわらず同一です。

（添付資料 No.1（記入用紙）にて設問をご確認ください。）

(2) 教員独自の設問を任意に設定することができます。その場合は、板書して学生に周知してください。（添付資料 No.1（記入用紙）設問⑬～⑮参照）

(3) 上記の添付資料 No.1（記入用紙）、No.2（学生への案内）の 2 点については、一部メ

ールボックス上にも設置しております。必要に応じてお持ちいただき、スマートフォン等入力端末を持参していない学生や、一時的にインターネットがつながりにくい場合等に学生へ配付しご使用ください。(なお、記入後は、各自でポータルサイトから入力も行うようご指示ください。)

## 5. アンケート結果の集計と取り扱いについて

アンケートの集計は、外部機関（業者）に委託し次の2通り行います。

### (1) 各教員の授業ごとの集計（集計結果表、自由記述結果表）

10月中旬にメールボックス等において、各授業担当教員（複数教員で担当の授業は代表教員）へ返却予定です。授業改善の資料としてご活用ください。

### (2) 授業方法全体および各授業方法別での、大学、学部、学科、教養、教職(学芸員課程含む)単位の集計

(1) とともにFD推進委員会の管理下に置き、調査結果の掌握及び分析等、大学としての組織的な授業改善へ活用します（教務課にて保管）。あわせて学科長等へ提供し、各教員の現状・課題の把握、助言等に具体的に活用します。

## 6. アンケート集計後のフィードバックについて

集計結果を返却後、各授業担当者にポータルサイトから「授業運営の教員振り返り」にて授業改善計画を提出いただき、それを学生にフィードバックいたします。提出方法等詳細は、集計結果返却時にあらためてご案内いたします（10月中旬を予定）。

また、大学全体の結果をFD推進委員会にてまとめ、大学ウェブサイト等へ公表します。

以上

<この件に関するお問い合わせ先>

教務課（FD推進委員会事務局）（内線2225）

外線 0561-75-2795、Eメール：[ed-nuas\\_gr@nuas.ac.jp](mailto:ed-nuas_gr@nuas.ac.jp)

## 《Webによる学生受講結果アンケート手順と説明例》

以下、説明例です。\*\*\*の部分は、実施時に各授業に応じて変更してください。

### ①アンケートの意味の伝達

これから学生受講結果アンケートを行います。このアンケートは、皆さんがこの科目を受講して何を学んだか、何を学べなかったのか、これからどこをより深めていきたいか、など各自が今後よりよい学びにつなげるために振り返りを行うことが大きな目的になります。

当然、誰がどのように回答したかを担当が知ることはありませんし内容によって成績が変化することはありません。皆さんの今後のよりよい学修と授業改善の為だけに利用されるも

のです。(可能であれば、実際に皆さんの意見を基に\*\*を改善しました、等具体例を挙げて説明する。)

## ②この授業の狙い(学科ディプロマポリシーと関連して)

まず、この授業の狙いは何であったかを振り返ります。この授業は、学科全体の学位授与方針(ディプロマポリシー)の中の\*\*\* (例 知識理解)の育成が目的でした。そのために、はじめに\*\*\*を学び、\*\*\*について考えました。(など授業内容を概説する)。皆さん、どこがよく学べて、どこがあまり学べなかったですか?興味をもち、より深く学びたいと思える部分はありますか?各自考えてみてください。

## ③スマートフォン(タブレット、パソコン)等の準備

では、自分のスマートフォン(タブレット、パソコン)を出してください。アンケートは各自のポータルサイトから入力しますので、準備ができた人から自分のポータルサイトを開いてログインしてください。

(参考)

・PC(<http://portal.nuas.ac.jp>)

・スマホ、タブレットなど (<http://portal.nuas.ac.jp/s>) QRコード



## ④入力できない学生への対応

現在、入力できる端末を所有しない人は申し出てください。(申し出る学生がいた場合、記入用紙を配付し以下を伝える。)同じ様に、この用紙に回答し、\*\*日(例 最終授業の日)までに各自でポータルから入力しておいてください。この用紙は、入力後廃棄してください。

## ⑤学生入力

ポータル画面メニューにある「アンケート回答」→「学生受講結果アンケート」→「授業評価一覧」と進み、この授業\*\*\* (科目名)を選択したら設問を良く読んで回答を初めてください。自由記述欄もあります。ここもできるだけ書き込んでください。なお操作方法は、ポータル掲示にある「学生受講結果アンケート提出について」にも記載されています。

ネットにつながりにくく入力できない人は、少し間を置いて再入力してみてください。それでも上手くいかない場合は申し出てください。(申し出る学生がいた場合、上記④同様、記入用紙を配付しその場で記入し、後で各自ポータルから入力するよう伝える。)

## ⑥入力完了後の指示

入力ができた学生は\*\*\* (解散など)してください。

以上

# アンケート設問

(2019年度前期) 学生受講結果アンケート

このアンケートはみなさんの学びの振り返りと授業を充実させるためのものです。結果は教育・授業改善のみを目的に使用し、成績には一切関係しませんので、率直にお答えください。  
なお、回答の際は、各授業の担当教員からの指示に従ってご回答下さい。

授業を受けた現在、あなたの考えに最も近いと思うものを選択してください。

## 1. 学習目的の理解と達成状況について

①私は、この授業の学習目的（シラバスに記載された到達目標など）について、よく理解・納得している。 (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

②私は、この授業の内容についてよく理解できた/演習によく取り組むことができた (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

・特によく理解（取り組み）できた部分について、入力してください。（全角100文字以内）

・特に理解（取り組み）できなかった部分について、入力してください。（全角100文字以内）

③私は授業時間外で、この授業のために学習（予習・復習・課題作成など）を十分行った (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

④（今の考えとして）私は①の学習目的は達成できたと感じている (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

⑤私はこの授業での勉強（課題）を今後さらに深めたいと思っている (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

## 2. 授業の運営について

⑥自分にとって、授業に積極的に参加できる学習環境であったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

⑦授業で使われた教材（教科書、題材、テーマなど）は自分にとって適切なものであったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

⑧成績評価物（テスト、課題、レポートなど）は自分にとって適切なものであったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

⑨授業の開始と終了の時間は適切であったと思う (必須)

- 5: 大変そう思う                       4: わりとそう思う                       3: どちらかといえばそう思う  
 2: どちらかといえばそう思わない                       1: あまりそう思わない                       0: 全くそう思わない

### 3. 自由記述

最後にこの授業についてあなたの考えを記述してください。

⑩この授業で特に良いと思った部分（全角100文字以内）

⑪この授業で改善した方が良いと思った部分（全角100文字以内）  
（皆さんの意見で次の学期からの授業がより良いものになります。）

⑫その他自分が気づいた部分（全角100文字以内）

例）学びから自分が気づいたこと、特に理解（取り組み）できなかった部分への対策、この学びの今後への活用など、なんでも自由に記述してください。

### 4. 担当教員独自設問

※授業担当者からの指示があった場合、回答してください。

⑬

- 5 : 大変そう思う       4 : わりとそう思う       3 : どちらかといえばそう思う  
 2 : どちらかといえばそう思わない       1 : あまりそう思わない       0 : 全くそう思わない

⑭

- 5 : 大変そう思う       4 : わりとそう思う       3 : どちらかといえばそう思う  
 2 : どちらかといえばそう思わない       1 : あまりそう思わない       0 : 全くそう思わない

⑮

- 5 : 大変そう思う       4 : わりとそう思う       3 : どちらかといえばそう思う  
 2 : どちらかといえばそう思わない       1 : あまりそう思わない       0 : 全くそう思わない

設問は以上です。

選択・入力が終わりましたら、右下の「回答」ボタンをクリックしてください。  
※スマートフォンからの回答の場合、ボタンはページ最上部に表示されている場合があります。

ご協力ありがとうございました。

回答

## 本年度 FD 活動を振り返って

### 1. 実施方法について

本学では、学生の学びへの振り返りを大変重視している。効果的な振り返りは学生への自律的に学ぶ力を涵養できるからである。この作業は昨年から次の様な方式で実施されている。

- ・原則全クラスを対象
- ・ポータルサイトからの Web 入力で回答
- ・13 回目から 15 回目の授業内で一斉に実施

学生にとってスマートフォンによるアンケート入力は手慣れたもののように、大きな問題

点は寄せられておらず、この方式になり2年目を迎えたこともあるためか教員からの質問なども発生しなかった。

## 2. 学生受講結果アンケートと授業運営の教員振り返りの実施状況

このアンケートに対する過去3年間の教員参加率（各年度10月時点）を以下に示す。

＜表1 過去3年間における学生受講結果アンケート参加率＞

2019年度		2018年度		2017年度	
提出者数	提出率	提出者数	提出率	提出者数	提出率
220	100%	224	99%	228	95%

2019年度アンケートに参加した教員は100%となった。過去2年間に比較して参加率は順調に増えている。この方式への学内認知が広まったためと思われる。全学生の実参加割合は82.1%（2019年後期）であり改善の余地は大いにあるのだが、他大学の授業時間外に各自入力する方式の場合回答率数十%とかの例を聞くと、制度的にはかなり上手く進められているのではないだろうか。

教員は、前年後期と今年前期を1クールとして自分の授業運営について振り返りを記入している。PDCAサイクルにおけるA（改善）に相当する作業である。方式は昨年同様、

- ・従来通り、特定の1科目を担当が選び振り返りを記入
- ・複数科目もしくは全体状況について振り返りを記入

のどちらかを教員が選択するものである。参加率は表2の通りであった。

＜表2 過去3年における授業運営の教員振り返り記述者割合＞

2019年度		2018年度		2017年度	
提出者数	提出率	提出者数	提出率	提出者数	提出率
233	96%	209	94%	216	94%

昨年に比較して微増であったが、誤差の範囲の可能性も否定できない。

## 3. アンケート結果と分析

今年度も、

- ・学習目的をよく理解している、の設問で5（大変そう思う）もしくは4（そう思う）に印を付けた学生でかつ
- ・この学習目的を達成した実感がある、の設問で5か4を付けた学生でかつ
- ・今後この学修を深めたいと考えている、の設問で5か4を付けた学生



の、全体における存在割合を示す「肯定評価率」を用いて、効果的授業の度合いを示す指標とした。過去3年間の肯定評価率の変化を表3に示す。なお、( )内は各設問で5を付けた学生、すなわち強く成功を実感している学生の存在率を示している。

＜表3 過去3年間における肯定評価率の変化＞

	2019年度	2018年度	2017年度
講義	52.1% (14.7%)	41.4% (9.8%)	39.9% (8.9%)
演習	60.6% (18.5%)	53.9% (14.2%)	54.2% (13.9%)
実験・実習	61.2% (18.8%)	52.8% (12.9%)	53.9% (14.8%)

各科目とも大幅な改善が見られる。学科等ごとの改善状況を次に示す。ただし( )内は昨年2018年度からの増減分である。これを見ても明らかなように各学部学科概ね改善に成功していることが分かる。

＜表4 2019年度前期学科等ごとの改善状況＞

	講義	演習	実験・実習
管理栄養	50.2%	55.9%	55.3%
	(13.7%)	(13.8%)	(7.7%)
映像メディア	52.1%	64.4%	55.0%
	(8.7%)	(10.5%)	(6.7%)
デザイン	49.7%	61.3%	61.8%
	(1.6%)	(1.3%)	(9.6%)
ファッション造形	49.4%	61.2%	64.0%
	(11.4%)	(-0.5%)	(5.5%)
子どもケア	57.4%	69.8%	84.1%
	(7.7%)	(12.0%)	(7.5%)
看護	48.6%	48.9%	63.9%
	(16.7%)	(-2.6%)	(11.7%)
教養	48.9%	53.4%	73.1%
	(14.5%)	(7.2%)	(13.2%)
教職／学芸員	52.9%	-	50.0%
	(5.0%)	-	-

この中で、特筆すべき点は教養科目の大幅な改善である。本学教養でも学生の主体的学びの推進からアクティブラーニングが積極的に取り入れられるようになってきている。もともと学生からの期待度が専門に比べて低い科目群であるため、その改善効果が大きいのである

う。ただ教養科目に限らず全学的に改善がなされており、原因として、

- ・全体的に学生を授業に主体的に引き込むような運営ができています。
- ・教員が目的を意識した授業運営ができています。
- ・授業のねらいをしっかりと伝えてからアンケートを実施すると言ったアンケートの実施方法が上手くなった。

と言ったことが教員振り返りからも読み取ることができています。このように各教員の意識に根ざした FD 活動が好効果を与えているとするならば本学の FD 活動は順調に改善されていると言って良い。

#### 4. 今後の課題

この他にも教員の振り返りでは、各人が自分で問題を見つけそれを積極的に改善しようとする意欲がみられる記述も多く、肯定評価率への意識も高まってきている。これらはひとえに実行部隊である代表 FD 委員の尽力、裏方として業務を支える教務課の協力、および学長・副学長のリーダーシップに負うところが大きい。

一方多くの問題点も内包している。もっとも重要なものは「学生の振り返り」の改善である。先述のように、自分の学びへの適切な振り返りは、それ以降の自律的な学修行動につなげることができる。振り返りはある種の重要な学びの一つと言える。ただし、通常の知識・技能の学びとは異なったものであり、身につけて完了というものではない点が難しいところである。なぜならば本来の振り返り能力とは、学生が将来出会うのであろう諸問題に対して有効に実施できるものでなければならないが、諸問題は未知で多岐に渡っているため過去に身につけた静的な手法だけでは対応できるかどうか評価も判定もできないからである。

では「振り返り教育」についてどのようにすればよいのだろうか？教員は、問題状況において自分も含めた登場人物の考え方の変遷について想像させるなど、ある程度やり方の枠組みを示す必要がある。その上でさらに重要な事は、その枠組みの中でさまざまな結果に対して振り返りを進めようとする姿勢の習慣化を身につけさせることである。習慣化ができていれば以降の人生において自律的な学びにより自己改善が進み、やがてある一定以上の水準の原因分析や対応判断ができるようになる（思考・判断力の育成）。そのような繰り返し行為は本人にとってノウハウや自信という形で蓄積されていき、やがては自律的な学びのできる人間となっていく。

ところが悲しいかな現実には、スマートフォンを片手に数分で入力を済ませている学生が多い。このような学生の表面的な振り返りは過去の出来事の思いだしに過ぎず、今の結果に対する原因の探求と言った深く本質的なものにはなり得ない。しかも深い振り返りへ誘導しようとするほど、学生の肯定評価率は低下してしまうことが予測され、教員も前向きな指導に踏み込めないと言う事態も考えられる。このような課題を今後どのように改善していけばよいかが大きな課題である。

## 5. 結果からみる成功事例

毎年述べているが、肯定評価率は高ければ良く、低ければ即悪いと言うものでもない。授業改善で新しい事を試みたり、大人数で学生に新しい考え方を理解させたりする必要がある科目は特に数値は上がりにくい。着目すべき科目は、値そのものではなく、大きく改善に成功した科目である。成功要因として教員は、そこにどのような工夫を施したかが共通して知りたいノウハウとなっていく。今年も目立った改善に成功した授業を成功事例として次に示しておく。

教養情報系の教員 A は、数年前と比較して肯定評価率が 10%以上向上している。その理由を知るために本人にヒアリングを行った。結果、その教員は課題や学生コメント質問などに対して適切なコメントを添えて返すなど、学生と充実した意思疎通ができるよう改善に務めていたことが分かった。また、タイピング練習のような地道な修得作業も学生本位に任せず、こまめな成績の管理や上手な練習の促しなどを行って学生結果に対する十分なフィードバックを与えていることが分かった。結局、学生が学びにどれだけ満足できたかは、学びの中でどれだけ教員と自由な意思疎通ができていたのかに密接に関係しているようである。学生も人間であるため、演習課題などをやらせっぱなし、進め方などが適切かどうかについて学生に確かめない、理解できたかも確認しない、と言うような意思疎通の無い一方通行授業では学生の学びへの肯定感は生じにくい。これはある意味自然なことであろう。

以上

## 集計結果

- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（講義）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（演習）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（実験・実習）

2019年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	講義
------	----

回答者数	12,415
------	--------

No	設問文	回答数と回答率(%)												平均点				肯定回答率					
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	3,110	25.1%	5,582	45.0%	3,154	25.4%	405	3.3%	111	0.9%	53	0.4%	12,415	0	3.89	-	-	-	70.0%	-	-	-
	2 授業内容の理解	3,259	26.3%	5,368	43.2%	3,053	24.6%	528	4.3%	153	1.2%	54	0.4%	12,415	0	3.88	-	-	-	69.5%	-	-	-
	3 授業時間外学習	2,797	22.5%	4,308	34.7%	3,579	28.8%	1,205	9.7%	387	3.1%	139	1.1%	12,415	0	3.60	-	-	-	57.2%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	2,539	20.5%	5,181	41.7%	3,855	31.1%	624	5.0%	160	1.3%	56	0.5%	12,415	0	3.74	-	-	-	62.2%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	4,280	34.5%	4,341	35.0%	2,956	23.8%	552	4.4%	199	1.6%	87	0.7%	12,415	0	3.94	-	-	-	69.4%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	3,904	31.4%	4,549	36.6%	3,040	24.5%	638	5.1%	188	1.5%	96	0.8%	12,415	0	3.89	-	-	-	68.1%	-	-	-
	7 教材の適切性	4,170	33.6%	4,677	37.7%	2,847	22.9%	489	3.9%	165	1.3%	67	0.5%	12,415	0	3.97	-	-	-	71.3%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	3,877	31.2%	4,934	39.7%	2,943	23.7%	424	3.4%	157	1.3%	80	0.6%	12,415	0	3.94	-	-	-	71.0%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	5,791	46.6%	4,138	33.3%	2,011	16.2%	296	2.4%	114	0.9%	65	0.5%	12,415	0	4.21	-	-	-	80.0%	-	-	-
4	13 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※5と4と回答した比率

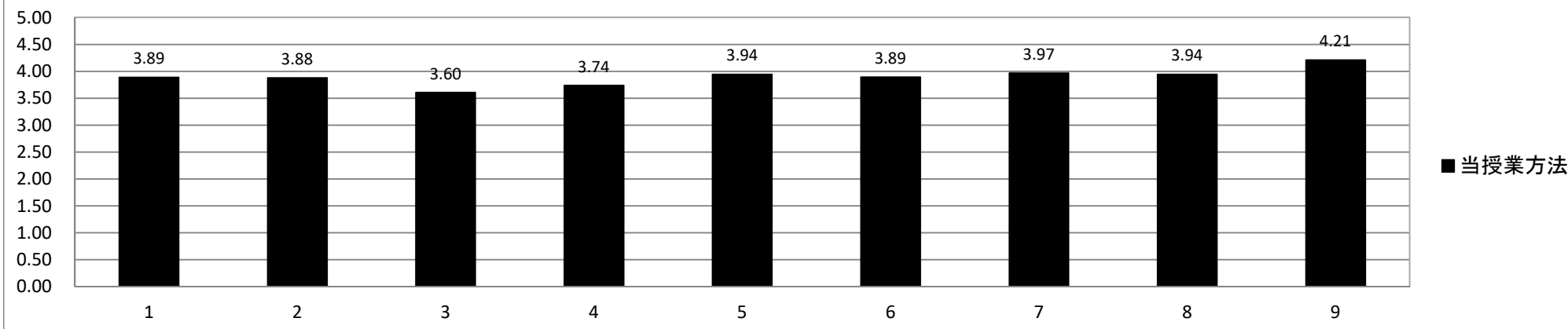
学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		52.1%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		14.7%	-	-	-

※1  
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生  
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生  
について比率を算出したものです。  
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2019年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	演習
------	----

回答者数	7,734
------	-------

※5と4と回答した比率

No	設問文	回答数と回答率(%)												平均点				肯定回答率					
		5大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	2,469	31.9%	3,391	43.8%	1,645	21.3%	160	2.1%	53	0.7%	16	0.2%	7,734	0	4.04	-	-	-	75.8%	-	-	-
	2 授業内容の理解	2,750	35.6%	3,330	43.1%	1,462	18.9%	144	1.9%	43	0.6%	5	0.1%	7,734	0	4.11	-	-	-	78.6%	-	-	-
	3 授業時間外学習	2,524	32.6%	2,754	35.6%	1,749	22.6%	481	6.2%	154	2.0%	72	0.9%	7,734	0	3.88	-	-	-	68.2%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	1,997	25.8%	3,425	44.3%	1,970	25.5%	267	3.5%	61	0.8%	14	0.2%	7,734	0	3.90	-	-	-	70.1%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	3,494	45.2%	2,523	32.6%	1,417	18.3%	210	2.7%	68	0.9%	22	0.3%	7,734	0	4.18	-	-	-	77.8%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	3,430	44.3%	2,696	34.9%	1,320	17.1%	204	2.6%	67	0.9%	17	0.2%	7,734	0	4.19	-	-	-	79.2%	-	-	-
	7 教材の適切性	3,200	41.4%	2,856	36.9%	1,430	18.5%	171	2.2%	56	0.7%	21	0.3%	7,734	0	4.15	-	-	-	78.3%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	2,969	38.4%	2,970	38.4%	1,510	19.5%	188	2.4%	59	0.8%	38	0.5%	7,734	0	4.10	-	-	-	76.8%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	3,965	51.3%	2,470	31.9%	1,106	14.3%	124	1.6%	50	0.6%	19	0.2%	7,734	0	4.31	-	-	-	83.2%	-	-	-
4	13 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

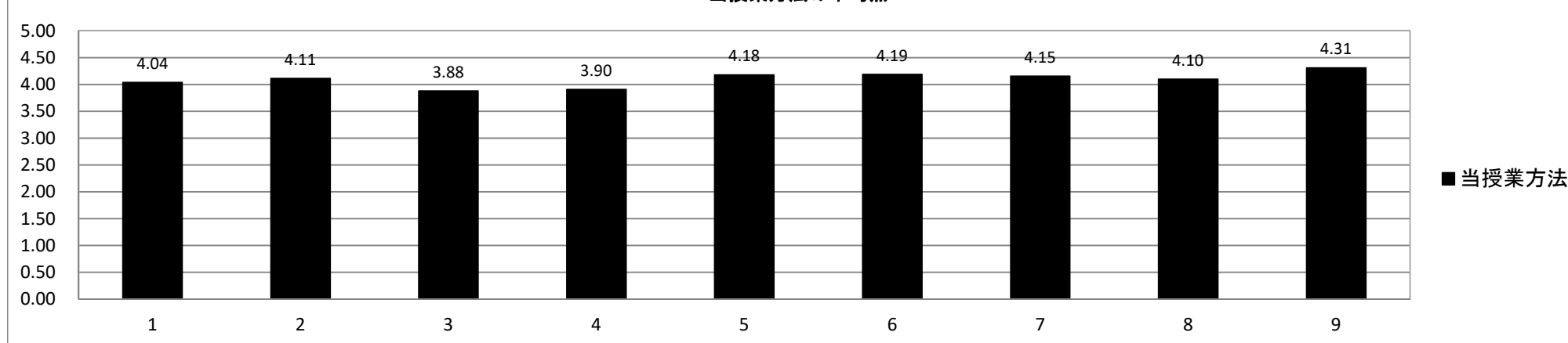
学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		60.6%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		18.5%	-	-	-

※1  
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生  
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生  
について比率を算出したものです。  
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2019年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	実験・実習
------	-------

回答者数	2,456
------	-------

No	設問文	回答数と回答率(%)												有効回答		平均点				肯定回答率			
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない		授業 方法	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	769	31.3%	1,101	44.8%	527	21.5%	44	1.8%	13	0.5%	2	0.1%	2,456	0	4.04	-	-	-	76.1%	-	-	-
	2 授業内容の理解	883	36.0%	1,006	41.0%	499	20.3%	50	2.0%	15	0.6%	3	0.1%	2,456	0	4.09	-	-	-	76.9%	-	-	-
	3 授業時間外学習	906	36.9%	879	35.8%	510	20.8%	110	4.5%	30	1.2%	21	0.9%	2,456	0	4.00	-	-	-	72.7%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	681	27.7%	1,064	43.3%	623	25.4%	76	3.1%	10	0.4%	2	0.1%	2,456	0	3.95	-	-	-	71.1%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	956	38.9%	858	34.9%	540	22.0%	78	3.2%	18	0.7%	6	0.2%	2,456	0	4.07	-	-	-	73.9%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	1,061	43.2%	859	35.0%	438	17.8%	70	2.9%	19	0.8%	9	0.4%	2,456	0	4.16	-	-	-	78.2%	-	-	-
	7 教材の適切性	923	37.6%	944	38.4%	495	20.2%	72	2.9%	15	0.6%	7	0.3%	2,456	0	4.09	-	-	-	76.0%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	821	33.4%	969	39.5%	561	22.8%	70	2.9%	27	1.1%	8	0.3%	2,456	0	4.00	-	-	-	72.9%	-	-	-
	9 開始・終了時間の適切性	951	38.7%	855	34.8%	527	21.5%	84	3.4%	29	1.2%	10	0.4%	2,456	0	4.05	-	-	-	73.5%	-	-	-
4	13 担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14 担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15 担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※5と4と回答した比率

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		61.2%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)		18.8%	-	-	-

※1  
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生  
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生  
について比率を算出したものです。  
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点

